

[illegible]

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】社会生活を豊かに生きるために必要な言語や言葉をもとに、ものごとについて正確に考え、適切且つ多様に表現

目 0 の目標 :

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	言語とそれに関する文化を通して考える力や想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読						
1 学期	A 古文の世界を楽しむ 【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に確に捉えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	●言語文化の現代的な価値を考える 筆者が『枕草子』から読みとった、現代にも通じるテーマについて、具体的に説明する。 「言葉の響き」を音読し、歴史的仮名遣いにふれる。 「春はあけぼの」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 筆者が「をかし」として捉えている事柄やその述べ方の共通点、筆者独自のものの見方について考える。 教材：千年の時が与えてくれる安堵、枕草子「春はあけぼの」「ありがたきもの」	○	○	○	【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に兄と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。		○	○	○	10
	定期考査			○	○			○	○		1
	B 受け継がれる古文 【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 1 この作品の背景となっている京都の町や羅生門の描写に注目し、そこに描かれている当時の社会状況についてまとめる。 2 下人が羅生門の下に至るまでの経緯をふまえ、門の下での下人の心情についてまとめる。 3 楼に上った下人の心理の推移を、箇条書きにして整理する。 4 老婆は自分の行いについてどのように語っているか、また、下人はそれをどのように受け止めているか、整理する。 ・教材 「羅生門」	○	○		【知識・技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えを文章にしようとしている。		○	○	○	11
	C 日本語の中に生きる漢文 【知識及び技能】 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 1 「漢文の基本構造と訓読」を読み、訓読の基本的なきまりについて理解する。 2 成句・格言を繰り返し音読する。 3 「置き字／再読文字」を読み、訓読の基本的なきまりについて理解する。 ・教材 ズームアップ 漢文由来の名付け	○	○	○	【知識・技能】 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 漢文に由来する学校名・会社名・人名などを調べて発表する課題において、積極的に自分の考えを説明しようとしている。		○	○	○	7
	定期考査			○	○			○	○		1

2 学 期	A 「ことば」を吟味する【知識及び技能】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【思考力、判断力、表現力等】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項1 登場人物の心情を行動や言動から読み取る。2 情景描写の効果について理解する。3登場人物の人物像や文章の結末について、考えたことを話し合う。 ・教材 「ゴール」	○	○	○	【知識・技能】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って考察しようとしている。	○	○	○	5
	B 和歌による心の交流 【知識及び技能】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	1「芥川」を音読し、訳文を参考にして大意を捉える。 2 前半部の「男」の行動を整理する。 3 和歌にこめられた「男」の心情を読み取る。 4「筒井筒」の段を音読し、大意を捉える。 5「筒井筒…」「比べ来し…」の和歌から、「男」と「女」の心情を読み取る。 教材 「芥川」、「筒井筒」（伊勢物語）	○	○	○	【知識・技能】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】粘り強く『伊勢物語』と『今昔物語集』の違いを抽出し、学習課題に沿って文章表現についての話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		○	○		1
	C 語感を磨く 【知識及び技能】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 1 登場人物の心情を行動や言動から読み取る。 2 情景描写の効果について理解する。 3 心情描写について考察する。 ・教材 「オムライス」	○	○	○	【知識・技能】文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】進んで題名の意味を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加することができる。	○	○	○	8
	D 詩歌の系譜 【知識及び技能】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 1 それぞれの短歌を音読し、その調べを味わう。 2 それぞれの短歌について、句切れを調べ、句切れのもたらす表現効果について話し合う。 3 短歌を自作し、批評し合う。 ・教材 短歌	○	○	○	【知識・技能】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 【主体的に学習に取り組む態度】学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		○	○	○	1

[illegible]